

# 東本願寺門信徒会館 慈光殿

No. 07-004-2010更新  
新築  
その他

発注者	浄土真宗東本願寺派 本山 東本願寺	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
基本プラン	株式会社中島設計コンサルタント	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
設計・監理	鴻池組東京本店一級建築士事務所	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		
施工	株式会社鴻池組 東京本店					

## 歴史性のある外観イメージと省エネ効果が融合した門信徒会館

### 歴史と建設の背景

東本願寺は、東京メトロ銀座線「田原町」駅から徒歩5分の地にあり、厨房用品や道具を販売する日本一の間屋街である「かっぱ橋道具街」に隣接している。こうした商業地区にありながら、お寺の境内に一步足を踏み入ると、そこに流れる空気は“凜”としていて背筋が伸びるような雰囲気を感じられる。東本願寺の歴史は、1591年教如上人が江戸神田に江戸御坊光瑞寺を開創したことが始まりと言われており、明暦の大火（1657年）以降、現在地の浅草に移転した。元は真宗大谷派東京別院であり、「浅草本願寺」や「東京本願寺」と称されていたが、真宗大谷派から独立し、のちに「浄土真宗東本願寺派 本山 東本願寺」と名称が変更された。一般には「浅草の門跡様」として親しまれている。東本願寺では平成23年に、「親鸞聖人七百五十回御遠忌」が厳修されることになっている。この御遠忌法要は、浄土真宗最大かつ最も意義深い法要であり、「東本願寺門信徒会館 慈光殿」は当御遠忌の記念事業として、ご門徒や一般の方々地域の人々にもさまざまな形で貢献できる施設を目指し、境内に建立されることになった。

### 歴史性の継承（瓦葺根）

東本願寺の境内には、大きな甍を持つ本堂がある。同じ境内に建立される「慈光殿」は本堂との協調と寺院建築らしさを外観で表現するために、大屋根と各階に庇を設け瓦葺きとした。瓦には平瓦と素丸瓦が一体となった飛鳥瓦を採用。本葺瓦と比較すると単位荷重は約半分でディテールは土を使用しない乾式工法のため、瓦葺き仕上げでありながら軽量であり建物全体の耐久性にも貢献している。



瓦葺き施工途中



飛鳥瓦



外観写真

### 新たなシンボルの形成（鐘楼堂）

大屋根に囲まれた屋上（5階外部）に鐘楼堂を設置。その屋根には避雷針機能を備えた相輪を設置することにより外観を特徴付け、地域のランドマークとしての役目を担わせた。梵鐘は寛永7（1630）年に鋳造されたものであり、台東区の有形文化財に指定されている。今回の事業で解体された浄華堂（納骨堂）での役目を終え、「慈光殿」の鐘楼堂で新たな歴史を刻み始めた。



鐘楼堂



梵鐘

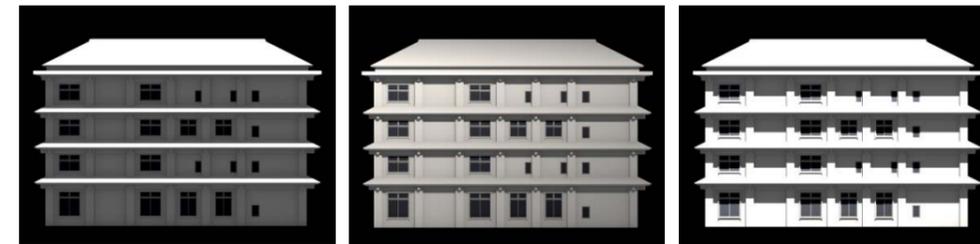
### 庇の日射遮蔽による熱負荷抑制

庇や軒など窓の上部に固定されているものは、開口部の日射遮蔽手法の一つである。

開口部の日射侵入率は簡易的に

【ガラスの日射侵入率×日射遮蔽部材（ブラインド等）の日射遮蔽係数×庇等の日射遮蔽係数】で表わされる。

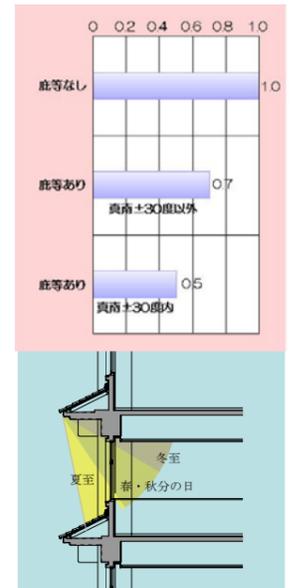
下記のモデル写真は「慈光殿」の南面外壁における、夏至・冬至・春秋分の日の中時における庇による日射遮蔽の様子を表わしている。夏至では開口部全体を覆うように庇の影が深く落ちるため、日射侵入率は低い値となり冷房負荷の軽減に、逆に冬至では庇の影は浅く開口部上端にも掛かっていないため、日射侵入率は高くなり暖房負荷の軽減に寄与している。



夏至

冬至

春・秋分の日



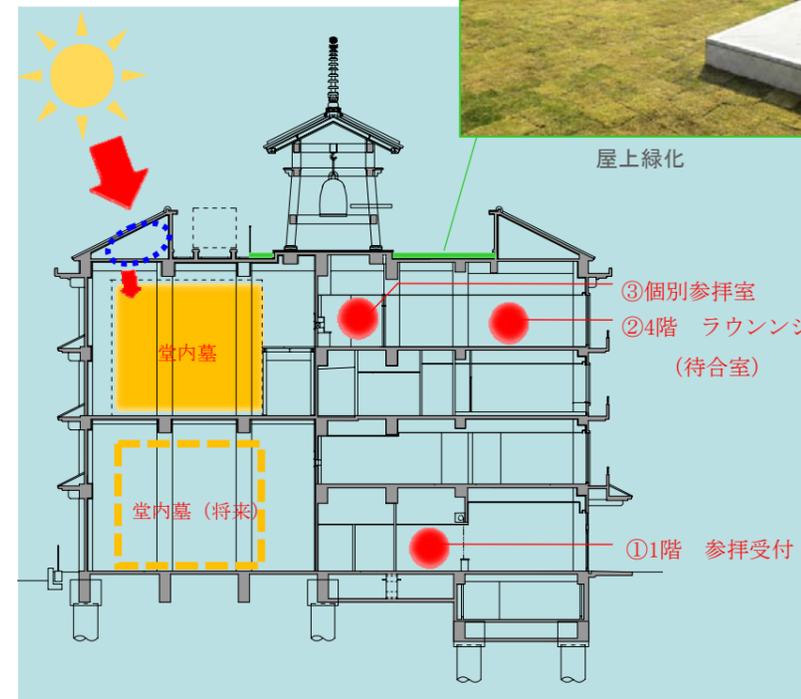
庇断面図

### 大屋根・屋上緑化による熱負荷抑制

大屋根には日射熱負荷抑制のために屋根裏空間を設置した。また、屋上は設備機器置場以外を緑化している。



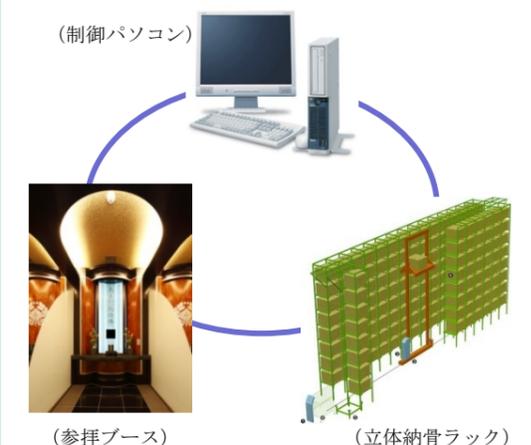
屋上緑化



断面図

### 自動化納骨厨子システム採用の堂内墓

現在首都圏の墓地事情は大変厳しく、墓地を決めることが難しい時代と言われている。従来の墓地に比べ圧倒的に安価でありながら価値の高い堂内墓『浅草浄苑』を計画した。この『浅草浄苑』には、コンピュータによって管理制御された立体納骨ラック内の納骨厨子を参拝室の各参拝ブースまで自動搬送する『自動化納骨厨子システム』を採用した。このように、安価でありながら価値が高く交通至便な堂内墓であれば気軽に参拝が可能である。



自動化納骨厨子システム概念図

### 建物データ

所在地	東京都台東区
竣工年	2009 年
敷地面積	1,204㎡
延床面積	3,033㎡
構造	RC造
階数	地下1階、地上5階

### 主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（お寺の境内に建つ建物としての外観、最上階に新たなシンボルとして鐘楼堂を設置）
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制（熱線反射ガラス+複層仕様、庇の深い外装）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（氷蓄熱空調設備、LED照明、センサー制御、エコキュートの採用）
- LR2. 1. 水質源保護（節水型機器の採用）
- LR3. 2. 地域環境への配慮（屋上緑化、方位等に配慮した計画）
- Z. その他（自動化納骨厨子システムを採用した堂内墓）